



学校だより

令和 7 年 10 月吉日
上越市立有田小学校
校長 野田 晃

「楽しさ」を創り出せる人に

10 月 10 日、「なかよしスマイルハート集会」を行いました。これは、新潟県福祉保健部、法務局、人権養護委員等による人権啓発キャラバンが新潟県の学校を訪問し、いじめや差別をしない、優しい心、正しい心、思いやりのある心が育つように、みんなで協力してよりよい学校にしていこうとする集会です。有田小の他にも 12 校を訪問する予定です。

6 年生がリーダーシップを取り「なかよし班」ごとに集まり、どんなことをするとよい学校になるのか、いじめや差別がない学校になるのか、を考えました。班ごとに頭がくっつくぐらいに相談したり、高学年が低学年に優しく寄り添ったりする姿がたくさん見られました。県、法務局、人権擁護委員の方々から、「みんなで相談できる素晴らしい学校ですね」「仲よく笑顔で活動する姿がとてもよいですね」など、たくさん褒めていただきました。よい意見がたくさん集まりました。1 階オープンスペースに掲示されています。

10 月 14 日は「なかよし班遊び」を行いました。6 年生が遊びを考え 1 年生から 6 年生の縦割り班で楽しく遊ぶ活動を行うものです。遊びを通して、優しい心や思いやりの心を育むとともにリーダーシップやフォロアーシップを育てようとするものです。

発想豊かな様々な遊びが企画されていました。リレー、集団ゲーム、クイズ、風船バレー、イス取りゲームなどなど。6 年生が丁寧に説明したり優しく指示したりする姿、「ほかほか言葉」を伝え合いながらみんなで協力して楽しもうという姿、そしてたくさんの笑い声や笑顔溢れる姿がたくさんありました。

わがままを言わず、自分だけが楽しむのではなく、みんなが楽しむことができるために協力しようとする心が育ってきました。また、教師の指導や指示がなくとも、子どもたちが自分たちで考え、楽しい学校、もっとよい学校を創り出そうとする力も育ってきました。「自分もみんなも大切にする子」がどんどん増えてきていることをとてもうれしく思います。

もちろん、「学校が楽しい」と思う子ばかりではありません。「学校が楽しくない子」もいます。大きな理由は「勉強」と「友達」のようです。学校は勉強するところです。勉強が嫌いな子にとって、学校は楽しい場所になりにくいです。また、学校は友達と生活するところです。友達とうまく人間関係を築けない子にとって、学校はつまらない場所になってしまいます。一人一人の子どもの心に寄り添いながら、少しでも勉強が楽しくなるように、そして、友達と仲良く学んだり遊んだりできるように、励まし、そして支援していきます。

しかしながら、楽しいか楽しくないかを決めるのは、その人自身です。勉強が苦手であっても「分かった！できた！」と楽しく勉強している子がいます。自分の気持ちを伝えることが得意ではないけれど、たくさんの友達から信頼されたり愛されたりしている子もいます。先生や友達がどんなに楽しませようとしても、その子が「楽しくない」と思えば、楽しくないのです。また、「先生が楽しい授業をしてくれない」「友達が楽しく遊んでくれない」と嘆いていても楽しくなるわけではありません。毎日、不機嫌な気持ちで生活するのはかわいそうです。どんな状況であろうとも、「楽しさ」を創り出す人になってほしいと願っています。